

会 議 録

会 議 名	第 6 回 野田市生物多様性のだ戦略市民会議
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	(1) 自然環境調査の結果報告について（公開） (2) 今後のスケジュールについて（公開）
日 時	令和 4 年 5 月 1 3 日（金） 午後 1 時 3 0 分から午後 3 時 1 0 分まで
場 所	市役所低層棟 4 階委員会室（リモート併用）
出席委員氏名	【対面参加】 会 長 長谷川 雅美 副会長 茂木 康男 委 員 朽津 和幸、新保 國弘、田中 勝美、土屋 守、 黒川 茂、香西 陽一郎、村田 歩、柳澤 朝江、 岡田 壽 【リモート参加】 委 員 鈴木 隆博
事 務 局	宇田川 克巳（自然経済推進部長） 池澤 孝之（みどりと水のまちづくり課長） 茂木 嘉則（みどりと水のまちづくり課課長補佐） 野島 真紀（みどりと水のまちづくり課自然保護係長） 満田 和総（みどりと水のまちづくり課自然保護係主事）
欠席委員氏名	委 員 田中 利勝、柄澤 保彦、矢口 勇二、鈴木 哲雄、 川崎 裕幸
傍 聴 者	なし
議 事	第 6 回野田市生物多様性のだ戦略市民会議の会議結果（概要）は次のとおりである。
1 開会 《事務局：池澤課長》 委員総数 17 名のうち 11 名が会場参加にて、1 名がリモートにて、合計 12 名が出席し半数以上が出席しているため、条例の規定に基づき会議が成立する旨を報告。欠席者は田中利勝委員、柄澤保彦委員、矢口勇二委員、鈴木哲雄委員、川崎裕幸委員。 本日の会議は公開であるが、現在のところ傍聴希望がないことを報告。	
2 会長挨拶	

生物多様性戦略をまとめる上で、野田市内の様々な環境を調査員の皆様に調査していただいた内容を報告いただきながら、その内容に沿って、生物多様性戦略を考えていく位置付けになっているかと思う。生物多様性とは何かという堅苦しい議論ではなく、野田市を含めたこの地域で生きていく私たちが、子どもから大人に育っていく過程で、野生動物のといった大層なものでもなく、身近な所にいる生き物を大事にしていくことが、多様性を守っていく上で大切なのだと思う。最近、ベートーベンの第九を指揮者なしで演奏するというNHKの番組があった。楽器を演奏するだけでも大変なのに、指揮者なしでお互い協力しながら素晴らしい演奏を成し遂げるという番組だった。自然環境も、誰か一人の絶大な権力を持った指揮者がいて、自然をどうするかを一つ一つ指示するのではなく、自然を守りたい、自然は大事だという思いを持った方々が、その気持ちを持ち寄って地域の自然をよくしていく、そういうことにつながると私は解釈した。生物多様性戦略という楽譜があればよいということではなく、大事なのは演奏。今ある野田の自然環境がどういう自然なのかを学び、子どもたちにこういう自然を残してあげたい、それにはどうしたらいいのか考え、演奏に相当する小さな自然のモデルを大事にする。過去のこういう時点に戻そうとか、原生自然でなければいけないとか、人の手は一切入れてはいけないという強制的な観点ではなく、それぞれが自然を大事にする気持ちを持って多様な自然環境を守っていく。その方針を皆様と協力しながらまとめていくということかと思う。よろしくお願いしたい。

《事務局：池澤課長》

それでは、以降の議事進行を長谷川会長にお願いします。

3 議題：自然環境調査の結果報告について（資料1-1、1-2）

《事務局：野島係長》

自然環境調査結果について説明。

《委員》

まず1点目は、調査員からのコメントが記載されたのは良かったと思う。2点目は、調査結果が四季別に示されていて非常に良かったと思う。しかし、野田野鳥同好会としては、種数だけではなく確認された月を加えたリストを作成していただけると有り難い。リストは公表する必要はないが、今後の観察会などに役立つと思う。また、希少種・外来種の確認種数が書いてあるが、詳細リストの表にランクを書いていただければ、有り難い。また、小船橋水辺公園に休憩施設がないという表現があるが、雑草が繁茂していて見えなかっただけで実際はあるので表記を修正してほしい。また、10年前、平成23年から24年にかけて調査をした結果として、野田市内の自然環境ホットポイントとして生物多様性が保たれている16箇所を地図と写真で示す資料としてまとめている。そこに、例えば植物だったら653種、うち千葉県レッドデータブック記載種が何種と記載されており、こういったものがあると、非常に分かりやすいし、有り難い。特に、前回の調査地であった船形、阿部、目吹などは、10年前とどう変わっていて、今回

の調査からなぜ外したのかの理由なども分かったと良いのではないかな。鳥類の確認種数も前回調査から増えた原因が環境が良くなったから増えたのか、よく分からない。環境省が20年前と20年後の鳥類調査を比較した結果を公表しているが、スズメが激減していたり、カラスが減っていたりする。そういった過去との比較検討を入れた方がよいのではないかな。最後に、座生調整池では、県から調整機能がない箇所は樹木を伐採するという話が出ている。当然調整池なので、調整池の機能が損なわれるとまずい。10年前とは環境が全く変わっているのでも県の方でも考慮して調整機能を果たすように検討していただきたい。小船橋水辺公園の管理も、我々が年に何回か観察会に入らる中で、管理者である農政課、実際には委託業者が適切に管理していただいている。やはり行政だけでは目が行き届かないところがあるので、他の団体が入ってうまくやっているとよいと思う。今回の調査結果については前回よりも多少進歩したと思う。10年後どうなるか分からないが、次の世代の方が誇れるような戦略を策定していくべきだと思う。

《事務局：宇田川部長》

座生調整池については、現在、県で調整機能を果たすように管理しているが、調査員からハンノキが大きくなりすぎているという御意見を頂いており、県に管理方法について要望を出したいと考えている。

今回、自然環境調査結果をまとめているが、実際は違う地点の調査もしていただいている。阿部湧水地では山林が多く野鳥も多い等、いろいろな所の報告が上がっているが、それを全部載せるよりも、調査地点として選んだものをどう公表して見て知ってもらおうかという観点で調査員会の中でもまとめさせていただいた。次回以降の本題として、各事業についてどうしていこうかという話をいろいろ御意見いただきたい。

《委員》

植物では帰化植物が26.1パーセントとかなり多いが、現在のリストの表記だと、どれが帰化植物であるか植物を知らない人には分かりにくい。そのため、帰化植物、栽培、野生といったことが分かる印があると良いと思う。国のレッドデータブックに対し、市内では比較的よく見られる、又は最低でも市内では希少なものであるなどが分かる印をつけると良いのではないかな。その選定に当たって、調査している方が分かっていると思うため、そういった方を集めてもらい、それらの情報を反映させると良いと思う。これは飽くまでも観念的なものになってしまうが、保護していく上では必要なことだと思う。

《事務局：宇田川部長》

今頂いた御意見については、調査員会でも、どこまでお知らせし守っていくかという話がでたと思う。種を守るのか、それをどこまでやるのか、法律上守れるのか、条例を作って守るのかいろいろある中で、現在野田市では条例を作り、種と地域を指定して守っているものもあるが、生物多様性戦略では、まず場所を守る方向性になると考えている。種の保存については、種や場所などごとに担当課と個々に動いた方が良く感じている。生物多様性戦略の中で守る種を謳ってしまうと、どこに何の種があ

るのかの詮索も入るため、場所を守っていくというまとめ方しかないだろうという話をさせていただいた。この調査報告書については、知らせて良い種と悪い種がある中で、場所を載せるのはやめ、しかし野田市内にいることは伝えるという方針でまとめさせていただいた。希少種を守るという話は、調査した方と個々で相談しながら、取り組んでいきたいと考えている。

《委員》

種を守っていくことは凄く難しい。今回の環境調査と種を守ることは、別の次元であり、分けて考えないといけないと思う。また、委員の意見と同じように、住宅地がたくさんあると逸出植物や帰化植物が多いということを一般の人に知っていただきたいという気持ちがある。そのため、そういうものに印を付けていただきたい。

《事務局：宇田川部長》

実際に現地に行った調査員の方でないとそこは難しい。このような意見が出たので、今後、他の調査員の方にも伺ってみたい。

《会長》

最終的に調査をすることが目的というより、調査員の皆様が、その結果を地域の皆様に伝え、野田にある良い自然を守るための裾野を広げていくための協議が大事だと思う。皆様からどうやって守っていくか等の御意見を反映させて、報告書を作成することが大事だと思う。頂いた御意見をうまく汲み取れたら良いと思う。できるだけ委員の皆様から様々な御意見を頂き、事務局と熟慮してまとめるために、今日はできるだけ多様な御意見を頂きたい。

《委員》

環境調査の成果をどう一般公開するかが極めて重要である。しかし、野田市のホームページには、10年前に調査された結果も公開されておらず、先ほど委員が示してくれた、10年前に作られたという素晴らしい地図もあまり一般には知られていないようだ。市民の森の話が出たが、ホームページには市民の森の名前が挙げられているだけで、どこにどういう森があり、それぞれどういう特徴があるかの公開はない。市民の森や三ツ堀里山自然園以外でも非常に素晴らしい自然が残されている場所がたくさんあるため、それをどう保護していくのかしっかり考えていただきたい。せっかくの素晴らしい調査結果がまとまったことを、オープンにしすぎると問題がある点が当然あると思うので、オープンにできない情報が何かも精査していただき、可能な限り、様々な情報をホームページを通して公開することと、市民に分かりやすく広報活動することの二本立てで考えると良いと思う。時系列の問題も、過去と今を比べ考察し、これからどうすべきかという情報をもっと頂きたい。特定外来生物の問題は、野田市のホームページを拝見したところ、ハクビシンなどだけが大きく取り上げられていて、他はあまり書いていなかったが、それ以外の特定外来生物が問題になっている可能性もあり、少なくとも、この調査地で、特定外来生物として問題になっているものがどういう結果だったかについて

は、市の公開された資料と対応をつけた方が良い。レッドデータリストとの対応関係に関しても一般市民の方にも関心持たれている方も増えていると思うので、そういう方にとって役立つような資料を公開していき、市の施策として、外来生物や絶滅危惧種の対応について施策を考えると同時に、その情報を一般市民に対して公開することと、広報活動について、まず御検討をいただきたい。

《事務局：宇田川部長》

前回の調査は短期間で集中的に行ったため当時の調査員の方と話し合い、生物多様性戦略の調査結果の中に概要を入れて公開し、調査報告書の公開は控えた経緯がある。今回の調査報告書については、調査員の皆様から、一般公開、ホームページに載せる了解を得ているので公開していきたい。

《委員》

鳥の観察会をした際に、チュウシャクシギ、ムナグロ、エナガ、カワセミを生まれて初めて見たと感動した方がいた。野田でコウノトリを初めて見て感動する人もいる。野田にはそのような貴重な鳥がいることを知らない方も多く、私が公民館活動で見せてあげると、カラスとスズメぐらいしか知らなかった方でも、自分の住んでいる身近な所にこんな鳥がいたのか、野田は素晴らしい所だと感動する。生物多様性をもっと宣伝しなければいけないと思う。野田にはコウノトリだけではなく、他にも様々な鳥がいることを教えてあげることが重要だと思う。野田には、地元の方しか知らない資源となるものがいっぱいあるため、そういうものも宣伝していくと良い。

《委員》

何回もこうして会議をしているのに、生物多様性とは何かを一般的には9割以上の方が知らないのはもったいない。情報として出せること出せないことがあると思うが、時間をかけて細かい調査を行った貴重な情報。なぜ平成20年に国が法律を作ったのかということも学校でも教えていない。先ほどお話があったように、買ってきた植物を枯れたといって捨てても根は残っている場合があるから、そこから増えて困っている場合がある。販売業者にもルールなどで市から告知などできるのではないかな。知らずにやってしまうということが現実的にはあちこちで起きている。1度には大変だと思うが、増えては困る動植物、絶滅しては困る動植物は何か、生物多様性とは何かなど、基本的なことを子供から一般市民まで教えていただく。法律に制定されている重要なことであるということ念頭において、今後の活動内容の準備が必要であると思う。市民の方あるいは地主の方に動いていただき取り組まなければならないと強く思う。

《事務局：宇田川部長》

今、委員の御意見が、今回の会議の核心だと感じている。生物多様性という言葉はまだ浸透しておらず、これを伝えるためにどうしたら良いかいろいろな御意見を頂き進めていきたい。まずは、どのような生き物がいるかを知って、学んでもらおうという意味

を込めて、実際の野田市の生き物を調査していただいた。現在、野田市は、191 の戦略関連事業を掲げているが、生物多様性が伝わっておらずなかなかうまくいっていない。当初、生物多様性が分かりやすいように、ホタルやコウノトリ、メダカのような生き物の指標をシンボルとして取り組んでいった方が良くと考え、実際はコウノトリをシンボルに掲げて行ってきた。しかし、シンボルを支えるには様々な生き物がいなければならないということがうまく伝わっていない。その点も含めこれからそれをどう伝えていくか、その事業をどうしていくか、次回以降その辺の御意見を頂きたい。

《会長》

しっかり調査をしていただいたということは委員の皆様にも、御理解いただいたと思う。せっかくの調査結果をどう伝え、発表し、守っていくのか、具体的なアクションを、委員の皆様から御意見を頂いてしっかり提案していくことがとても大事だと思う。調査結果の報告として、この形でお認めいただければと思う。

4 その他（今後のスケジュールについて）（資料2）

《事務局：野島係長》

資料2を説明。

《副会長》

生物多様性については、我々も本当に理解できているか分からないが、大人も理解できにくいことを、子どもたちに説明するのは難しい。大人は珍しいものとなると採り、それを誰かに売ろうとするような人もいる。大人の感覚ではなく子どもに純粋に生き物を大事にしていこうということを、学校、教育委員会とも相談する。自分が感じてきたことを学校のクラスの子どもたちに話すなど丁寧に取り組むしかないと思う。私も学校の帰りの子どもたちと話すと、よく話を聞けるため、幅広く行うよりも身近な子どもたちにできるだけ近くで接して話す機会を、教育機関の皆様と相談して、行った方が良くと思う。

《委員》

柳沢小学校の隣地には柳沢西山市民の森がある。しかし、報告書に書いてあるように荒れ放題で、ただのゴミ捨て場となっているのが現状である。我々としては、非常に関わりたいし、関わっていく案はある。教科と絡めて総合的な学習で取り上げることもできる。しかし、今後の課題となると思うが、市としてどうしていこうとしているのか、どう扱うのかが見えてこない。市民の森も多くが私有地であり、そこに入っているのか、どう関わっているのかが分からない。やはり行政からの情報提供や確認が必要。次の提案のためにも、是非早い段階でヒアリングに来ていただきたい。

《事務局：宇田川部長》

柳沢西山市民の森については、管理が徹底されていないと認識しているので、是非そ

の辺はお話を伺いたいと思っている。いろいろ御意見を頂いている中、環境調査から見えた課題は、生物多様性が浸透していないことと、生き物はいるが、そのことをどう伝えていくかということ、また、乱開発、ゴミの問題、行政による管理の限界等、様々な課題がある。それをすべて解決することはなかなか難しい現状ではあるが、具体策として挙げていきながら、皆で一緒に取り組んでいくという内容を事業として提案させていただきたいと考えている。

《委員》

みずき小学校では、例年、南部地区にどんな鳥がいるか調べている。我々は子供たちを教えるために行っているが、まず先生方を感動させないといけない。もう一点は、生物多様性が図られていないところと図られているところを比較検討できると良い。例えば、最近冬のカモが来なくなった場所と冬のカモが来るようになった場所があり、その違いはアシ原が残されたか残されていないかである。生物多様性とはそういうことだと皆さんに説明すると、非常によく理解できる。机の上でなく、フィールドでみて、比較検討して教えると大人も子供も生物多様性を理解しやすい。また、農薬の使用については、農家の人に理解してもらわなければならない。

《委員》

米に農薬をかけない方が良いことは分かっている。しかし、収穫が減ったらどうにもならない。年々米の価格も下がっている。自然も大事だが、人間が生きることも大事である。農家は収穫物を売ることによって初めてお金になり、足りなければ生活できない。その辺は決めつけるのではなく、何か良い方法を検討する必要がある。農家から見れば、米一俵でも大事なお金なので、その辺は是非、御理解を頂きたい。

《事務局：宇田川部長》

自然も大切であり、農家を守ることも大切である。そのため、いろいろな立場を考えて戦略を作らないといけないと考えている。全部が有機農法で作るということは実際は不可能である。農家が少なくなり、農地を守れなくなると環境も悪くなる。こういった悪循環もある。立場ごとの意見が違うことは当然と認識している。

《会長》

今、御意見いただいたように、どう暮らしていくかということを様々な施策の中で配慮していくという多様性の考え方、保全の考え方を浸透させていくことかと思う。調整役としての行政の役割は大きくなると思う。

学生に話をするとき、多様性ということは知らなくてもいい、感じてくれて、分かってくればいいということはよく言う。私の大学の恩師の先生がよく「気働き」という言葉を使っていた。それは人間社会の場でも使うが、生き物にも気働きすると、それが巡り巡って、「情けは人のためならず」ということとして、つながっていくことが、生き物を大事にする。自然を大事にするものの本質かなという気がする。

それは、調査したり、論文を書いたりだけではなく、具体的に生き物を守っていくた

めに自らが汗をかいて、自らが思っていくことが大事。

《会長》

本日は長時間の御審議に感謝申し上げます。今日頂いた御意見については、事務局での対応をお願いします。

以上で本日の議事は全て終了したため進行を事務局にお返しする。

5 閉会

《事務局：宇田川部長》

調査員の皆様については、自然環境調査の実施から報告書の取りまとめまで、非常に多大な御協力を頂いたことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。今回、自然環境調査報告書を提出させていただいたが、野田市の生物多様性に関する課題が、かなり見えてきた。分かりづらいものをどうやって分かりやすく伝えるのか、子どもたちにどう伝えたらよいのかなど、今回いろいろなキーワードを頂いた。

一方で、森林減少、乱開発、ごみの問題なども引き続き継続して考えていかななくてはならない。戦略はみどりと水のまちづくり課が担当だが、他の部署と連携しなければ解決できない課題もあるため、他部署とも連携しながら取り組んでいきたい。

野田市には誇れる自然が残っていると思っている。これを子どもたちに伝えていきたいという思いで、生物多様性戦略会議に引き続き御尽力いただければと思っている。

《事務局：池澤課長》

以上をもって、第6回野田市生物多様性のだ戦略市民会議を閉会とする。